



OTC薬を上手に使う…薬を毒にしないために② 薬の用法

No.3-1では薬を毒にしないための注意として用量について書きました。

ここでは用法について書いていきますが、実は用量と用法は表裏一体をなすものと言えます。用法とは文字通り「用いる方法」ですが、薬の効果を高めて副作用を出来るだけ少なくするために、これこそが「OTC薬を上手に使うポイント」なのです。用法に含まれる内容として、次のようなものがあります。

①使い方について…飲む、貼る、塗るなど用途と使い方

用途を間違えるケースはあまりないと思いますが、軟膏チューブやのどスプレーを初めて使うとき、薬が出てこないので不良品だというクレームがよくあります。穴を開けたり、ストッパーを外したりする必要があります。

笑い話のようですが、「坐薬」という剤型があります。「座薬」とは書いていないのですが、「坐薬とは、座って飲む薬」と思い込んでいた人もいたそうです。坐薬には解熱鎮痛薬や痔の薬があり、肛門から直腸に挿入するものです。

②用いる時間やタイミング

薬を飲む場合、食前、食後、食間、就寝前などの指示があります。このような指示はなぜあるのでしょうか。

薬を飲んで効果を出すには、薬が腸で吸収されて血液に入らなければなりません。最も吸収が良い飲み方は、胃に邪魔物(食物)がない「食前」です。しかし、胃腸への刺激が強過ぎる場合などはあえて「食後」に飲むように指示されています。解熱鎮痛薬やかぜ薬などがこれに相当します。また、胃や腸の中で働く薬は、空腹時でないとも効果が弱まります。胃粘膜修復薬や便秘薬、駆虫薬などで、「食間」又は「就寝前」と記されています。

③用いる量や回数

前回にも記したように、用量や回数は、効果と安全性が考慮された濃度が保たれるように決められています。血管収縮薬入りの鼻炎スプレーや目薬を使いすぎて出血を起こしたり、1日1回使用の水虫薬を何度も塗ってかぶれを起こした例があります。

④誤使用への注意

化粧かぶれやかミソリまけの予防にステロイド薬(副腎皮質ホルモン薬)を塗り続けて、皮膚変化(皮膚萎縮、毛細血管拡張、毛嚢炎)を起こし、ステロイド皮膚症になる例はよく知られています。長期に、広範囲に、使用してはいけない薬です。

信じられないことですが、水虫薬の液剤を点眼薬と間違えてさし、失明の危機に陥った例や、アルミなどの薄い金属やフィルム(ヒートシール)で錠ずつ分けて包装した錠剤やカプセルを、ヒートシールから出さずにヒートシールごと飲んでしまう事故が起きています。ヒートシールを飲み込んでしまうと、消化器官を傷つけるだけでなく、穿孔など手術が必要となることもあります。

うっかりミスも意外に多いようです。まずは添付文書などの注意をよく読みましょう。

